

学区の概況

- ・ 歴史をさかのぼると、もともと水陸両路の交流地であった。佐々木川は、昔は加治川に属し、旧鴻沼に下り新井郷川と合流、阿賀野川へ注いでいた。
当地区の耕作地の大半は、新発田藩の福島潟干拓事業（天保5年、1834年）により開拓されたものである。
- ・ 佐々木地区は、稲作を主とする農村地域で、1 ha から 2 ha を耕作する農家が多かったが、近年農地の委託化等も進んでいる。
- ・ 旧国道7号線が大字佐々木地区を通っている。また、新々バイパスの交通量の増加に伴い、県道日渡～鳥穴線の交通量が増加するなど、交通事故防止には細心の注意と指導の徹底が必要である。
- ・ 北興地区や西部工業団地など旧国道7号線周辺に工場や事務所が多数ある。
- ・ 保護者及び地域住民は、学校教育に対して理解があり、協力的である。共働きの家庭が多く、ほとんどの家庭では祖父母が子どもの養育を担当している。また、平成11年度より、児童クラブが新設され、多くの1～3年生の児童が利用している。
- ・ 新発田市街地に近接する地域として、家庭生活に都市化の傾向が現れているが、近年コミュニティセンターを中心に共同体意識の高揚が図られてきている。
- ・ 校区は広く、通学距離が約4 km に及ぶ地区もあり、スクールバスを運行している。